

平成 18 年 11 月 22 日

運転中の 1 号機における誤警報の発生について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

1 号機は定格熱出力一定運転中ですが、平成 18 年 11 月 21 日午前 9 時 44 分、「B 系原子炉自動スクラム*¹」の警報が発生しました。当該警報は、平均出力領域モニタ*²に関連する信号により発生したのですが、関連するパラメータには異常がないことから、午前 9 時 47 分、同警報を解除しました。

警報発生時に当該モニタに関わる作業がなかったことから、当該モニタの誤動作によるものと考えられますが、今後、原因について詳細に調査します。

これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : B 系原子炉自動スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系だけ発生した状態であり、制御棒は動作しません。スクラム信号は A・B 両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させます。

* 2 : 平均出力領域モニタ

原子炉運転中の出力の大きさを計測する装置で、6 チャンネル (A～F) あり、出力が大きくなった場合等に、原子炉を自動停止させる信号を出す機能があります。